



経済学者。越智郡富田村(現、今治市)出身。小学校卒業後に親元を離れ、兵庫県立神戸中学校(現、兵庫県立神戸高等学校)を経て、第一高等学校(現、東京大学)に進み、校長の新渡戸稲造や内村鑑三に師事した。東京帝国大学法科大学(現、東京大学)政治学科を卒業後、住友別子鉱業所を経て、大正9(1920)年、同大学助教授となった。その後、植民政策研究のため留学し、帰国後、同大学の経済学部教授となり『植民及植民政策』、『帝国主義下の台湾』などを著した。昭和12(1937)年、『中央公論』に「国家の理想」を発表し、軍部の戦争政策を批判して弾圧を受け、辞職に追い込まれた。

太平洋戦争終戦後、東京帝国大学に復帰し、社会科学研究所長、経済学部長などを務め、昭和26(1951)年から6年間、東京大学総長を務めた。退職後も学生問題研究所長として教育に携

わり、また、キリスト教伝道に尽力した。

略歴

明治26(1893)年1月27日	越智郡富田村に生まれる。
明治37(1904)年	神戸の従兄にあずけられる。
明治43(1910)年9月	第一高等学校に入学。校長は、新渡戸稲造
明治44(1911)年10月	内村鑑三の聖書研究集会に入門を許される。
大正6(1917)年	東京帝国大学法科大学政治学科を卒業。住友別子鉱業所に就職
大正9(1920)年3月	新渡戸稲造の後任として東京帝国大学経済学部助教授に任ぜられる。
10月	欧米に留学
大正14(1925)年	帝大聖書研究会を主宰して始める。
大正15(1926)年	『植民及植民政策』を出版
昭和12(1937)年	『中央公論』に「国家の理想」を発表。東京帝国大学教授を辞職
昭和20(1945)年11月	東京帝国大学に復帰
昭和21(1946)年	社会科学研究所長となる。
昭和26(1951)年12月	東京大学総長に就任する。
昭和32(1957)年12月	任期満了のため東京大学総長を辞す。
昭和36(1961)年12月25日	68歳で永眠

(写真提供：矢内原勝氏)

〈関連図書〉

- ・矢内原忠雄『植民及植民政策』 有斐閣 1926年
- ・矢内原忠雄『帝国主義下の台湾』 岩波書店 1929年
- ・矢内原忠雄『内村鑑三と新渡戸稲造』 日産書房 1948年
- ・矢内原忠雄『矢内原忠雄全集』(全29巻) 岩波書店 1963年~64年
- ・西村秀夫『矢内原忠雄』 日本基督教団出版局 1975年
- ・矢内原忠雄『私の歩んできた道』 日本図書センター 1997年
- ・矢内原伊作『矢内原忠雄伝』 みすず書房 1998年

〈主な収蔵資料〉…(P196, 16)

〈ゆかりのある場所〉…(P270, 28)